

令和6年度 文部科学省
現職日本語教師研修プログラム普及事業

児童生徒等に対する日本語教師（初任）研修報告

実施機関名	特定非営利活動法人 メタノイア
事業名	子どものための日本語教育研修(子ども初任研修)
事業実施期間	令和6年8月～令和7年2月
研修受講者数及び 研修修了者数	研修受講者75名中、研修修了者70名



■ 事業概要

1. 本事業の目的

地域における子どもを対象とする日本語教育・支援を行っている、あるいは、これから携わろうと考えている日本語教師・支援者等を対象に、文化審議会国語分科会による「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」（平成31年3月31日）（以下、養成・研修報告書とする）に示された、「児童生徒に対する日本語教師（初任）に求められる資質・能力」を育成するとともに、実践現場である地域支援の場における活躍の可能性を広げることを目指す。またこれまでの本事業の研修修了者のフォローアップと相互研鑽のためのネットワーク構築を図ることを目的とする。

具体的には、次の2つの目的にもとづき本事業を実施する。

- ① 児童生徒等への日本語教師研修：全国および海外にまたがる地域支援あるいは学校内支援の現場で、「地域」「ポジション（立場）」「対象児童生徒年齢層」により異なるそれぞれの課題に対応できる外国人児童生徒等教育・支援人材を育成する。
- ② 研修修了者のその後の取組みを共有し、課題解決に関する情報交流を行うために連携関係を作り持続可能なネットワークの仕組みを構築する。



■ 事業概要

2. 取り組みの内容

子ども初任研修

児童生徒等への日本語教師研修：全国および海外にまたがる地域支援あるいは学校内支援の現場で、「地域」「ポジション（立場）」「対象児童生徒年齢層」により異なるそれぞれの課題に対応できる外国人児童生徒等教育・支援人材を育成する。

修了者ネットワークの構築

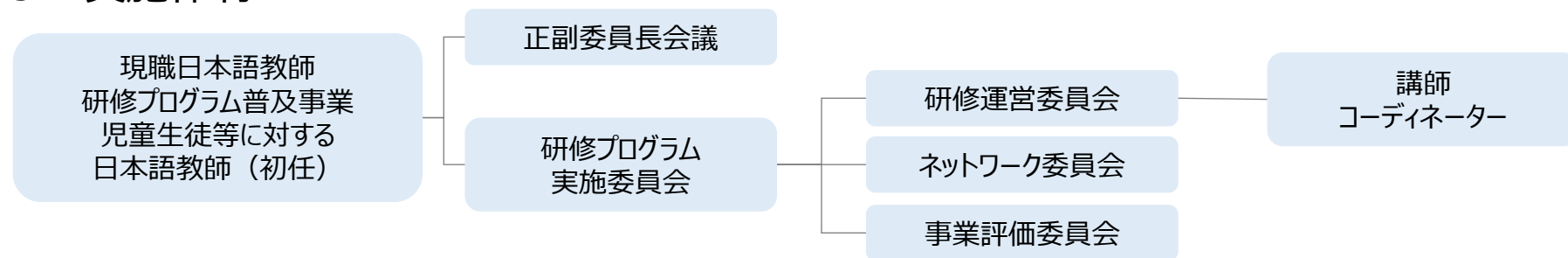
研修修了者のその後の取組みを共有し、課題解決に関する情報交流を行うために連携関係を作り持続可能なネットワークの仕組みを構築する。

これらの取り組みを通じ、養成・研修報告書において指摘されている課題である、「就学前から高等学校・就職までを視野に入れた教育」「発達段階に応じた日本語教育の方法」「地域・学校・企業等間の連携による支援」を行うための資質・能力を有し、さらに、マイノリティである子どもたちのエスニシティやアイデンティティを尊重しながら教育・支援を行うことができる初任日本語教師を育成する。また、持続可能な相互研鑽の機会を提供し、地域における児童生徒等への日本語教育の充実に貢献する。



■ 事業概要

3. 実施体制



- ①**正副委員長会議**：事業全体を統括する会議として正副委員長会議を開催する。正副委員長会議は、事業全体の計画、調整にあたりとともに、研修受講者募集、選考に責任をもつ。
- ②**研修プログラム実施委員会**：正副委員長及び研修講師3名から構成し、研修プログラム全般の統括を行う。下部組織にタスクフォースの委員会として、研修運営委員会、ネットワーク委員会、事業評価委員会を配置し、事業全体の一貫性を担保しつつ運営を行う。
- ③**研修運営委員会**：研修講師全員とコーディネーターで構成し、スクーリングおよび実習実施日程や内容、その際の具体的な役割を協議して決定する。スクーリングおよび実習はすべてオンラインで実施する。研修運営委員会は、全体を3クラスに分けて研修を実施し、実施後は、研修プログラム実施委員会に実施報告を行う。
- ④**ネットワーク委員会**：研修修了者のフォローアップとネットワーク作りの取組みとして、研修修了者のためのフォローアップセミナーの実施、修了者の相互研鑽のためのネットワーク構築に取り組む。
- ⑤**事業評価委員会**：評価計画の立案、検討を行い、それに基づき評価を行い、研修プログラム実施委員会に報告する。



■ 各研修の概要

1. 研修の目的と特徴

(1) 研修の目的・ねらい

外国人児童生徒等の背景や言語・学習環境、各地の受入れ・指導体制を十分に理解し、キャリア支援や社会参加という視点をもって日本語を子どもたちの生活・学習に関連付けて教えられ、マイノリティである子どもたちのエスニシティやアイデンティティを考慮した教育を行うことができる人材を育成する。

(2) 研修の特徴

①遠隔による実施

「オンデマンドの学習」と「オンライン同時双方向の対面学習（Web 会議システムの Zoom を利用）」を組み合わせた遠隔による複合型の学習形態で実施。

②6つのクールに分けて実施

約6か月の研修期間を、6クールに区分して実施した。各クールは、「オンデマンドの動画視聴による学び」「受講者各自の課題の遂行」「スクーリング（オンライン同時双方向対面学習）」で構成。

③クラスの編成

当研修では受講者を地域により3つのクラスに編成。各クラスを3名ずつの講師が担当し、よりきめ細やかな指導を実施。

■ 各研修の概要

1. 求められる資質・能力-シラバス-①

本研修のシラバス（科目と項目）と、文化庁文化審議会国語分科会（2019）『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告書）改訂版』の「児童生徒に対する日本語教師【初任】の資質・能力との対応関係を示す。

初任【児童生徒】に関しては該当する教育内容を含む（表のAは児童生徒に対する日本語教師【初任】の資質能力の対応項目、Bはその教育内容）。

	No.科目	項目	A	B
第1クール	1.外国人児童生徒等の背景・現状・課題1・2（6単位時間）	1 外国人児童生徒等の現状と課題 2 外国人児童生徒等の社会的・文化的背景 3 外国人児童生徒等施策	知識(3) 態度(1)(4)	①外国人児童生徒等の現状 ②外国人児童生徒等に対する教育施策 ④地域の現状
		4 地域の現状と課題（外国人集住地域・散在地域） 5 学習権・不就学 6 多文化共生	知識(3) 態度(4)	
	2.外国人児童生徒等の支援体制とネットワーク（3単位時間）	7 地方自治体の受け入れ体制 8 学校の教育体制 9 地域の支援体制	知識(3) 技能(7) 態度(3)	②外国人児童生徒等に対する教育施策 ③学習環境作り
第2クール	2.外国人児童生徒等の支援体制とネットワーク（3単位時間）	10 地域のリソースと社会的ネットワーク 11 保護者との連携・協力 12 エスニック・コミュニティ	知識(1) 技能(6) 態度(2)(4)	⑤学校・地域・家庭の言語環境と言語使用 ⑫異領域との協働
		13 異文化適応 14 異文化間能力 15 自文化中心主義・文化相対主義	知識(1)(2) 態度(5)	⑥多文化家族と子供の文化適応 ⑧教育・発達心理学
	3.外国人児童生徒等の文化適応（6単位時間）	16 異文化間移動とアイデンティティ 17 生育環境 18 社会化	知識(1)(2) 態度(2)	



■ 各研修の概要

1. 求められる資質・能力-シラバス-②

	No.科目	項目	A	B
第3クール	4.外国人児童生徒の言語習得と認知発達(6単位時間)	19 発達段階と言語習得 20 バイリンガリズム 21 母語・継承語・第二言語	知識(4) 技能(5)	⑤学校・地域・家庭の言語環境と言語使用 ⑦言語習得と認知発達 ⑧教育・発達心理学
		22 生活言語能力と学習言語能力(特別支援のニーズを含む) 23 リテラシーの発達 24 言語能力の測定(筆記テスト、DLA等)	知識(4) 技能(5) 態度(2)	
		25 コースデザイン 26 「特別の教育課程」による日本語指導 27 評価の対象と方法	知識(5) 技能(1) 態度(5)	
第4クール	5.外国人児童生徒等の日本語教育のコースデザイン(3単位時間)	28 初期指導(サバイバル日本語・日本語の基礎) 29 中期指導(技能別日本語) 30 日本語と内容(教科等)の統合学習(JSLカリキュラム等)	知識(5) 技能(1)(2) 態度(3)	②外国人児童生徒等に対する教育施策 ⑨日本語指導のコースデザイン
	6.外国人児童生徒等の日本語教育の方法と実際(6単位時間)	31 事例分析 32 子どもの日本語教育の方法1(幼児・小学校低中学年の子ども対象) 33 子どもの日本語教育の方法2(小学校高学年以上の子ども対象)	知識(4) 技能(1)(3) 態度(6)	
		34 教材・教具の活用1(体験型教材・教具) 35 教材・教具の活用2(教科書等の活用・著作権) 36 教材・教具の活用3(ICT)	知識(4)(5) 技能(4) 態度(3)	⑧教育・発達心理学 ⑨日本語指導のコースデザイン ⑬児童生徒のための教材・教具のリソース



■ 各研修の概要

1. 求められる資質・能力-シラバス-③

	No.科目	項目	A	B
第5クール	6.外国人児童生徒等の日本語教育の方法と実際(6/12単位)	37 子どものための音声指導 38 子どものための文字指導 39 子どものための文法指導	知識(4) 技能(2)	
		40 子どものための語彙指導 41 子どものための文章・談話指導 42 言語生活	知識(4) 技能(2)	
	7.社会参加のための日本語学習支援Ⅰ(3単位時間)	43 キャリア教育 44 ロールモデル 45 市民性教育	知識(2) 技能(8) 態度(1)	①外国人児童生徒等の現状 ④地域の現状 ⑫異領域との協働
第6クール	7.社会参加のための日本語学習支援Ⅱ(3単位時間)	46 進路選択支援Ⅰ(進学) 47 進路選択支援Ⅱ(就労) 48 社会活動への参加支援	知識(3) 技能(8)	
	8.外国人児童生徒等のライフコースと日本語教師の成長(6単位時間)	49 ライフコース 50 エンパワーメント 51 人権・社会的正義・公正さ	知識(2) 技能(7) 態度(4)	③学習環境作り ⑫異領域との協働 ⑪内省
		52 実践の共有 53 対話と省察 54 専門家との連携・協力	技能(6)(7) 態度(5)	
	実習(6単位時間)	(1)オリエンテーション(1単位時間) (2)授業見学(1単位時間) (3)指導案作成(1単位時間) (4)模擬授業・実習(2単位時間) (5)振り返り(1単位時間)	技能(1)(2)(5) 態度(1)	⑩参与観察・教育実習(模擬授業を含む) ⑪内省

■ 各研修の概要

2. 全体の研修スケジュールと実施体制

(1) スケジュール 研修期間：8月7日～1月31日

上記期間を6つのクールに分け、各クールの最終日にスクーリングを行った。
また、第5クールと第6クールの期間中に実習を実施した。

<全体像>



<スクーリング・実習の日程>

スクーリング等	日程	時間
スクーリング1	8月25日(日)	9:30～12:30
スクーリング2	9月22日(日)	9:30～12:30
スクーリング3	10月20日(日)	9:30～12:30
スクーリング4	11月10日(日)	9:30～12:30
スクーリング5	12月22日(日)	9:30～12:30
スクーリング6	1月26日(日)	9:30～12:30

スクーリング等	日程	時間
オリエンテーション	8月7日(水)	19:00～20:00
実習1～3	12月8日(日)	9:30～12:30
実習4～6	1月12日(日)	9:30～12:30



■ 各研修の概要

2. 全体の研修スケジュールと実施体制

(2) 講師

<研修スクーリング担当講師>

講師：齋藤ひろみ（東京学芸大学教授）

講師：中川祐治（大正大学教授）

講師：村澤慶昭（武蔵野大学教授）

講師：高柳なな枝（地球っ子クラブ2000代表）

講師：牧原紀子（宇都宮大学非常勤講師）

講師：佐屋麻利子（神奈川県立相模向陽館高等学校教諭）

講師：米本和弘（東京学芸大学准教授）

講師：築樋博子（元・豊橋市教育委員会外国人児童生徒教育相談員）

講師：浦久仁子（堺市立三原台中学校教諭）

実習担当：市瀬智紀（宮城教育大学教授）

実習担当：河野あかね（つくばインターナショナルスクール日本語教育ディレクター）

コーディネーター：山田拓路（NPO法人メタノイア代表理事）

※上記の他、各クラスに2名ずつ研修補助者を配置

■ 各研修の概要

2. 全体の研修スケジュールと実施体制

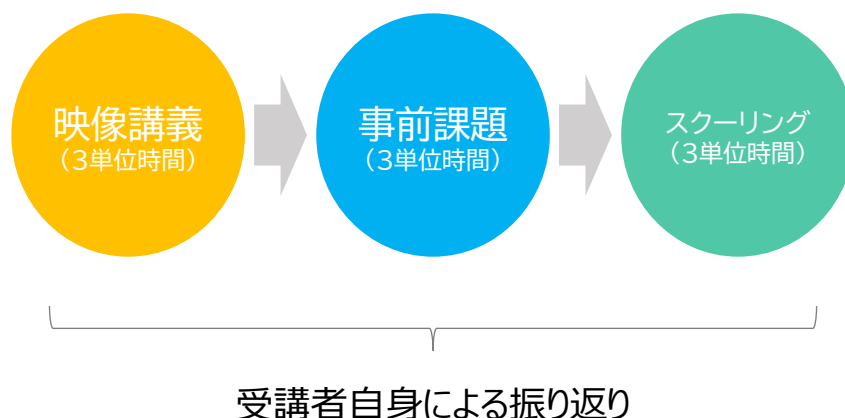
(3) 教育内容と方法

講義54単位時間を6クールに分けて実施した。

各クール（9単位時間）は【映像講義の視聴（3単位時間）】→【事前課題（3単位時間）】→【スクーリング（3単位時間）】で構成されている。また各クールのスクーリング後には学びを深めるために毎クールで受講者自身の振り返りを実施した。

これと並行して、第5クール、第6クール期間中に実習（6単位時間）を実施した。

<各クールの構成>



映像講義 各クール3本	事前課題	スクーリング
Himawari LMSにて指定された映像講義を視聴＋確認問題を実施し、ポートフォリオをGoogleフォームにて提出する。	各クールごとに課題を指示。映像講義を視聴の上取り組み、期限までにGoogleフォームにて提出。	それぞれが取り組んだ課題の内容を共有しながら、講義の内容について深める。グループワークや講師からの補足情報の提供など。

■ 各研修の概要

2. 全体の研修スケジュールと実施体制

(4) 各スクーリングの内容と事前課題①

	科目名	主講師	事前課題
第1クール	1. 外国人児童生徒等の背景・現状・課題 2. 外国人児童生徒等の支援体制とネットワーク	<Aクラス> 齋藤ひろみ <Bクラス> 中川祐治 <Cクラス> 牧原紀子	・国内の在留外国人と日本語指導が必要な児童生徒について、最新の結果をもとに、平成30年からの変化についてまとめる ・自身が関心のある地域の外国人児童生徒教育に関する施策・取り組みについて調べて整理した上で、子どもの学習権の保障や多文化共生を実現に向けて参考になる点と課題を挙げる。
第2クール	1. 外国人児童生徒等の支援体制とネットワーク 2. 外国人児童生徒等の文化適応	<Aクラス> 齋藤ひろみ <Bクラス> 佐屋麻利子 <Cクラス> 浦久仁子	・提示された2つの事例に関し、文化的背景を想像し、この後の学校の対応について提案する。 ・子どもたちが異文化適応において、出身地域・国の文化と日本社会・文化の「統合」に向かうために、社会関係資本を活用してどのような働きかけをしたいか具体的に検討する。
第3クール	1. 外国人児童生徒の言語習得と認知発達 2. 外国人児童生徒等の日本語教育のコースデザイン	<Aクラス> 村澤慶昭 <Bクラス> 中川祐治 <Cクラス> 牧原紀子	・自身の住む(活動している)地域の学校や支援の場において、母語・継承語の取り組みの実例を調べてる。 ・東京外国語大学多言語・多文化教育研究センターが製作した『「DLA」《使い方映像 マニュアルを視聴し、DLAと比較して、これまで自身が実施あるいは経験してきた言語の評価・測定方法との差異を整理し、説明する。』



■ 各研修の概要

2. 全体の研修スケジュールと実施体制

(4) 各スクーリングの内容と事前課題②

	科目名	主講師	事前課題
第4クール	1. 外国人児童生徒等の日本語教育のコースデザイン(2) 2. 外国人児童生徒等の日本語教育の方法と実際(1) 3. 外国人児童生徒等の日本語教育の方法と実際(2)	<Aクラス> 築樋博子 <Bクラス> 高柳なな枝 <Cクラス> 米本和弘	・子ども向けの市販教材またはネットやアプリ教材、ダウンロード可能な教材の中から、他の人におすすめの教材または使ってみたい教材を調べ、紹介する。 ・動画教材および指定された資料を参考に、子どもの年齢に応じた指導方法の違いについて把握し、その上で提示された学習者、学習内容の導入・練習を行う指導案(教案)を作成する。
第5クール	1. 外国人児童生徒等の日本語教育の方法と実際(3) 2. 外国人児童生徒等の日本語教育の方法と実際(4) 3. 社会参加のための日本語学習支援(1)	<Aクラス> 村澤慶昭 <Bクラス> 高柳なな枝 <Cクラス> 米本和弘	・動画教材内の「文章・談話のプロセス」を考慮し、子どもが自己表現する「書く」か「話す」、または「書く」「話す」を組み合わせた活動案を考える。 ・外国人児童生徒等が自分のキャリアを描き、社会との関わりを積極的に考えられるように、ロールモデルを紹介すると想定し、思い当たる人を理由を添えて挙げる。またロールモデルとの出会いの場・活動を、どのようにつくりか具体的なアイデアを出す。
第6クール	1. 社会参加のための日本語学習支援(2) 2. 子どものライフコースと日本語教師の成長(1) 3. 子どものライフコースと日本語教師の成長(2)	<Aクラス> 築樋博子 <Bクラス> 佐屋麻利子 <Cクラス> 浦久仁子	・自身の住む／活動する地域の、外国人児童生徒等の高校への「入口」から「出口」までに、どのような制度(高校入試を含む)や支援活動があるか調べてまとめる。 ・この研修で学んだことを活かし、今後自分が変えていきたいことやチャレンジしたいことについて、3分程度のプレゼンテーション資料を作成する。 ・研修を振り返り、第2回自己評価表を記入する。



事業概要

3. 研修の実施状況

(1) オリエンテーション

<実施概要>

実施日時：2024年8月7日（火） 19:00～21:00

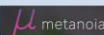
実施形態：オンライン（Zoom）

<実施内容>

1. 本研修の概要と参加の仕方について

- ・子どものための日本語教育初任研修のねらい等
- ・研修で使用する各ツールの案内
- ・課題の提出方法、スクーリングの参加方法等

2. クラス別顔合わせ

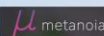
2024年8月7日（火） 

認定NPO法人メタノイア
文部科学省「令和6年度 現職日本語教師研修普及事業」

子どものための日本語教育研修
オリエンテーション
研修の概要・参加の仕方について

本事業 研修運営委員会委員長 クラスA講師 齋藤ひろみ

プログラム検討委員会委員長：山田拓哉 プログラム検討委員会副委員長・クラスB講師：中川祐治
研修講師 クラスA：星藤博子・村澤慶昭 クラスB：葛藤なな枝・佐藤麻里子 クラスC：浦久仁子・牧原紀子・米本和弘
実習担当：市瀬智紀・河野あかね
スタッフ：矢口京緒子・赤澤聡子・神谷菜津美・平野成美・矢作菜月・穂又結衣

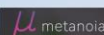
子どものための日本語教育 

初任研修のねらい

外国人児童生徒等の背景や言語・学習環境、各地の受入れ・指導体制を理解して、**キャリア支援や社会参加という視点**をもって子どもたちの**生活・学習に関連付けて日本語を教えられ、マイノリティである子どもたちのエスニシティやアイデンティティを考慮した教育・支援を行うことができる人材を育成すること**です。

研修を通じて、**各地域の児童生徒に対する日本語教育・支援の充実に貢献することを目指します。**

文化審議会国語分科会(2019)の「児童生徒に対する日本語教育【初任】に求められる資質・能力」及び「研修における教育内容」に基づく

課題の提出方法  (Googleフォームで提出)

課題の指示：講師より課題内容・提出期限についての説明があります。
(動画教材で提示される課題そのものではありません)

課題の作成形態：wordで作成しPDFに変換して提出してください。
ファイル名は **受講番号_名前_課題名_クラスNo.** とします。
例) 76D_齋藤ひろみ_課題_1

提出方法：Googleフォームを使って提出。
各クラスのGoogleドライブに格納されます。スクーリングの前に相互の課題に目を通してください

提出期限：スクーリング日の**1週間前日 24:00**

クール	1	2	3	4	5	6
期限	8月18日	9月15日	10月13日	11月3日	12月15日	1月19日
スクーリング	8月25日	9月22日	10月20日	11月10日	12月22日	1月26日

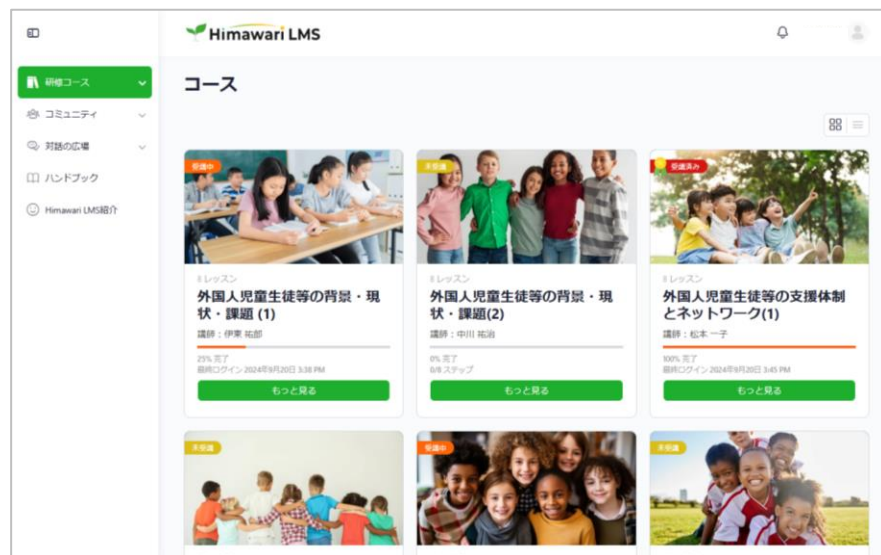
事業概要

3. 研修の実施状況

(2) 映像講義

映像講義は2020年度～2023年度に公益社団法人日本語教育学会が文化庁委託「日本語教育人材の研修プログラム普及事業」にて作成したリソース「Himawari LMS」を利用した。このLMSに搭載された映像講義やハンドブックを通して学び、確認テストで理解度を測ることができる。

受講者は各クールで指定されたコースを学習し、ポートフォリオを事前課題と共に提出する。



■ Himawari LMS

<https://lms.himawari-jle.com/lp/>

■ 事業概要

3. 研修の実施状況

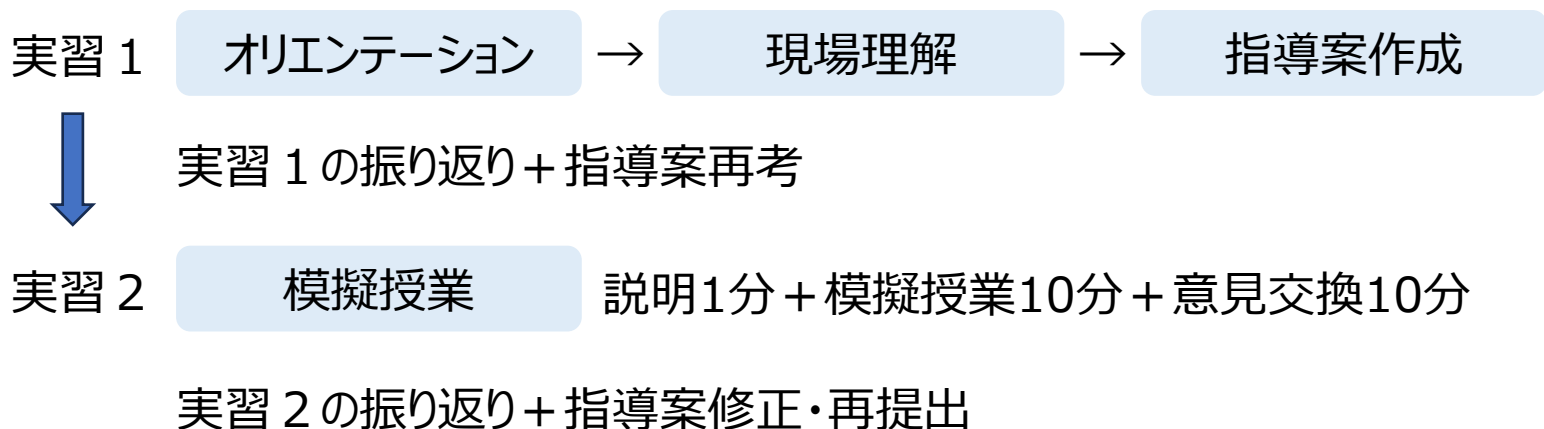
(4) 実習

実習はスクーリングで学んだことを踏まえて実践ができるよう、第5クール・第6クールの期間内に実施された。

また実施前には現場理解として地域および学校現場の様子について実践者から話を聞き、地域と学校の違いや支援の特徴、それぞれが担う支援の意味について考え、子どもの様子・実情を知ること、具体的な支援を考えられるようになるための時間を設けた。

なお、実習についてはスクーリング同様オンラインにて実施した。

<実習の流れ>





■ 各研修の概要

4. 受講者の募集①

＜募集方法＞

募集期間：2024年6月17日～7月14日

募集方法：当団体HPへの掲載、各種ウェブサイトへの告知掲載等

応募方法：Googleフォーム

募集定員：70名

2024年度 文部科学省委託 「現職日本語教師研修プログラム普及事業」 児童生徒等に対する日本語教師【初任】研修

SHARE



文部科学省



募集案内

NPO法人メタノイアは、2024年度文部科学省委託事業「現職日本語教師研修プログラム普及事業」(児童生徒等に対する日本語教師【初任】研修)を受託し、外国人児童生徒等に対する日本語教師初任研修「子どものための日本語教育研修(略称:子ども初任研修)」を実施いたします。

2024年6月17日、本研修の募集要項の公開および応募受付を開始いたしました。

2024年度受講者募集要項

2024年度 NPO法人メタノイア「子どもの日本語教育研修（子ども初任研修）」
受講申込フォーム 【募集期間：6月17日～7月14日】

受講を希望する方は、以下に記入してお申し込みください（送信してください）。記載内容をもとに受講者の選考を行います。



* 必須の質問です

メールアドレス *



■ 各研修の概要

4. 受講者の募集②

＜応募資格＞

・いわゆる「日本語教育の有資格者」で、児童生徒に対する日本語教育の経験が0～3年（初任）の者。
または、これに準ずる者。

・現在、または将来的に児童生徒の日本語教育に貢献する意欲がある者。

※受講については、これまで本研修（公益社団法人日本語教育学会実施の「子どものための日本語教育研修」2020～2023年度実施）の受講経験のない方に限らせていただきます。

＜応募条件＞

- 1) オンラインの同時双方向対面研修、実習に出席できること。基本的にはオリエンテーションを含め6回のスクーリング、実習の全てに参加いただきます。
- 2) オンライン上の研修を実施できる環境とスキルを有すること。Web会議システム（Zoom）による研修への参加やクラウド上での情報交換のための通信環境については、受講者ご自身で整えていただきます。
- 3) 実施した課題の共有や、スクーリングでの意見交換に積極的に参加すること。スクーリング・実習では、本名・カメラオンでご参加いただきます。
- 4) 母語、国籍は問いませんが、日本語でのグループでの作業や話し合い等に支障がない程度の日本語の力を有することを条件とします。
- 5) 多様な地域からご参加いただくため、応募者の居住地等を選考の要素として考慮します。
- 6) 知的財産権、人格権（個人情報守秘や肖像権の配慮等）について理解し、行動すること。例えば、本研修で提供する著作物の無断流用等は著作権侵害に当たり、認められません。
- 7) 参加にあたり、研修実施の妨げとなるような行為や言動を慎むようお願いします。



■ 各研修の概要

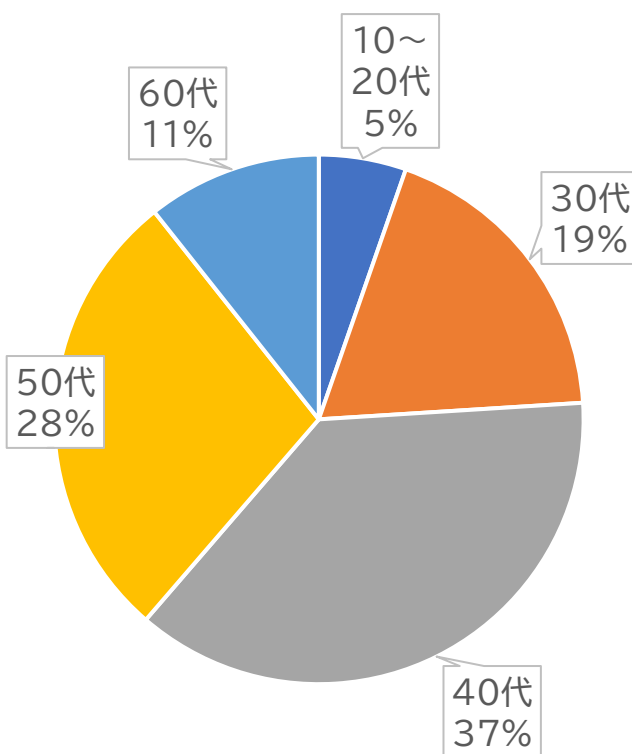
5. 受講者概要

受講者数：75名（研修開始時）

■ 受講者の居住地域

地域	人数
北海道・東北	4
南関東	29
北関東・甲信	4
東海	5
近畿	14
北陸	1
中国・四国	7
九州・沖縄	10
海外	1

■ 受講者の年代



今年度よりブロック制度がなくなり、受講者の居住地域は各地域から幅広く参加があった。またオンラインで実施することで、海外で活動する受講者の参加も可能となった。年代についても30～50代を中心に様々な年代の受講者が集まった。それぞれ異なる背景、立場の受講者が研修に参加することにより、受講者同士の深い学び合いにも繋がった。



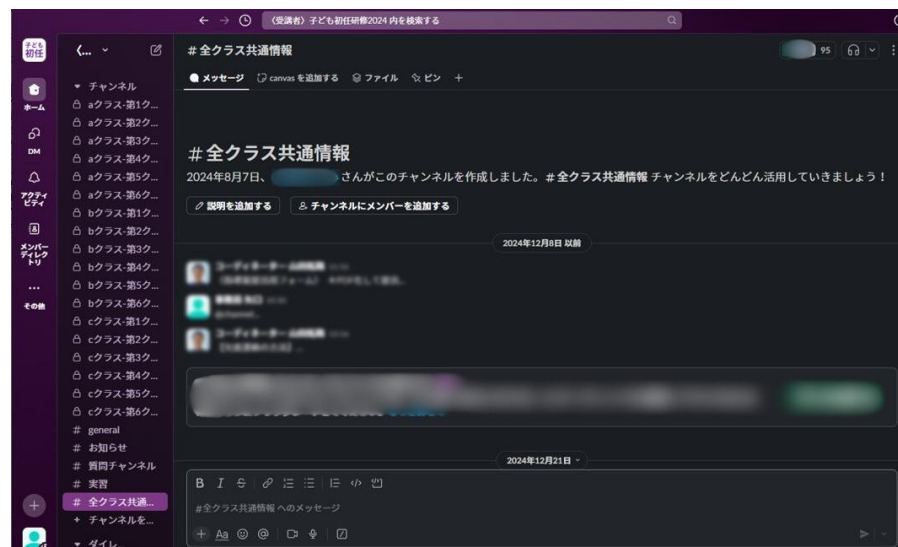
■ 各研修の概要

6. 研修前後のフォローアップ

(1) 研修中・研修修了後のネットワーキング構築

研修中の受講者への連絡等にはSlackを使用した。全体や各クラスのチャンネルの他、児童生徒の日本語支援に関わる情報などを共有できる「お知らせ」チャンネルを設け、研修中に講師や受講者から情報が発信された。

当Slackのワークスペースは研修修了後も開放し、受講者同士の交流や情報交換に活用することができる。



■ 各研修の概要

7. 評価

<修了要件>

- 研修に2/3以上参加していること。
- 提出課題、及びスクーリングの活動において、目標を概ね達成できていること。
- 実習（6単位）に参加して課題を提出していること。

<修了者数>

70/72名（97.2%） ※受講を途中辞退した3名は対象外

<評価について>

■ 評価対象

- ①各クールの課題レポート
- ②各回の振り返り
- ③実習指導案の改訂版・振り返りレポート

■ 評価方法

- ①②は各クラスの担当講師が分担して評価。③については実習担当者が評価。
- 提出の有無、内容で得点化した上で、スクーリング・実習でのパフォーマンス等を加味し総合的に評価し、講師全員で協議して評定を決定した。

<修了証サンプル>





■ その他の取り組み

1. 研修修了者のためのフォローアップセミナー実施とネットワーク構築

(1) 修了者ネットワークの構築

多様なオンラインツールを活用してネットワークをつくり、対話を行い、情報・リソースの共有と蓄積、課題解決に向けたディスカッション、協力関係づくりを促進できるような形で運営する。取組内容の具体は下記のとおりである。

Slackチャンネル

適時のスムーズなコミュニケーションを主に行う。それぞれの課題について情報交流しながら、助言の提供や意見交換を適時に円滑に行う。共通の関心がある者同士でスレッド（チャンネル）を立て、課題解決に向けたディスカッションや意見交換をする。

メーリングリスト

情報の一斉提供を主に行う。ネットワーク構築にむけて外国人児童生徒等日本語教育に関わる情報等を一斉に送信することで、効率的かつ確実な情報共有の場として確立する。なお、投稿内容に関するルールを定め、安全に留意しながら運用するものとする。

<現在の登録者数>

Slackチャンネル：251名

メーリングリスト（修了者ネットワーク）：290名

■ その他の取り組み

1. 研修修了者のためのフォローアップセミナー実施とネットワーク構築

(2) フォローアップ・セミナーの実施

過去の修了者のフォローアップや修了者同士の交流・ネットワーキングを目的に、全国（オンライン）、九州・沖縄ブロック、近畿ブロックで全3回のフォローアップ・セミナーを実施した。初回（全国）はキックオフのためどの地域からも参加できるようにオンライン（Zoom）にて行い、2回目の九州・沖縄ブロック、3回目の近畿ブロックについては地域でのネットワーキングを重視し対面にて行った。

<各セミナー実施概要>

	全国(キックオフ)	九州・沖縄ブロック	近畿ブロック	全国(第2回)
日時	2024年9月8日(日) 9:00～12:00	2024年9月27日(日) 13:00～16:00	2024年10月27日(日) 13:30～16:35	2025年2月19日(水) 19:00～21:00
実施方法	オンライン(Zoom)	対面	対面	オンライン(Zoom)
申込者数	125名	28名	23名	151名
参加者数	123名	28名	20名	111名



■ その他の取り組み

1. 研修修了者のためのフォローアップセミナー実施とネットワーク構築

■ 全国（キックオフ）

コーディネーター：齋藤ひろみ

講師：米本和弘、村澤慶昭

<プログラム内容>

1) 情報提供：「子どもの日本語教育」の現在

- ・報告「子どものための日本語教育研修（子ども初任研修）」の成果と課題
- ・複言語主義と社会参加支援－幼児期から青年期まで－
- ・子どもの日本語教育に関わる制度の新たな動き－教育的包摂－

2) 交流・情報交換：「子ども初任研修」で得たこと、活かしていること、活かそうと思うこと

- ・研修修了者の声「私のあの後、そして、これから」を聞く
- ・「私の……」を語り・情報交流する（小グループに分かれて）

3) ネットワーキングについて

<参加者の声>

- ・研修後の活動を通して見えてきたことをみなさんとシェア出来てよかったです。
- ・情報提供の中からの学びや、修了者のネットワークづくりにつながり、とてもいい時間でした。
- ・久しぶりに同じブロックの方に会えてとても嬉しかった。そして、皆さんの活動を聞いて大変参考になった。色々勉強できて本当によかった。

■ その他の取り組み

1. 研修修了者のためのフォローアップセミナー実施とネットワーク構築

■ 九州・沖縄ブロック

コーディネーター：松永典子

講師：外園孝子、原瑞穂

<プログラム内容>

1) 講演「みんながしあわせな学級、学校、社会をめざして」

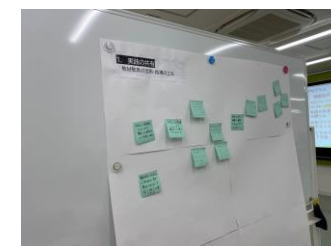
2) 活動報告

3) 課題別ディスカッション

- ・実践の共有（教材教具の活用・指導の工夫）
- ・体制づくり（学校の日本語指導体制づくり・地域の支援体制やネットワークづくり）
- ・子どものライフコースと日本語教師の成長（子どものキャリア支援・教師の学びの場）

<参加者の声>

- ・いつもの画面の向こうのメンバーに対面で会えただけで満足なのですが、テーマごとに意見を交わせたことはとても貴重でありがたい場でした。やはり、ただ同じ研修修了者の「仲間」というだけでなく、「同じ関心を持つ仲間」と意見交換、情報交換できるというのは、満足度が違うなと思いました。
- ・いつもオンラインでお会いしている仲間に、対面でお会いして、交流できたことでこれからもつながっていけると確信した。



■ その他の取り組み

1. 研修修了者のためのフォローアップセミナー実施とネットワーク構築

■ 近畿ブロック

コーディネーター：和泉元千春

講師：櫻井千穂

<プログラム内容>

0) 近況報告会 ※任意参加

1) ブース交流（テーマ別）

- ・初期指導や日本語と教科の統合学習の課題に対する指導教材や指導方法を共有
- ・地域での支援で困っていることについて、課題解決のためにできること
- ・学習に困難さを感じていそうな子どもたちのやる気につながる工夫
- ・日本語の初期指導を終えた子どもへの高校入試に必要な教科の言葉や考え方を教えることの困難さ

2) ワークショップ「多文化多言語の子どものためのことばの教育：評価から実践へ」

<参加者の声>

・実際にお顔を合わせて日々の実践や悩みについてお話しできたことが、とてもありがたかったです。また、後半の櫻井先生のお話のなかにあった、トランスランゲージ教育論がたいへん勉強になりました。なかでも「シフト」の考え方を意識して、子どもの力をみとり適切に伸ばす声かけができるようにしていきたいと感じました。





■ その他の取り組み

1. 研修修了者のためのフォローアップセミナー実施とネットワーク構築

■ 全国（第2回）

<プログラム内容>

- 1) 講話（文部科学省総合教育政策局日本語教育課 登録日本語教員養成専門官）
- 2) 本事業のセミナー報告
 - ・九州・沖縄ブロック
 - ・近畿ブロック
- 3) 地域別交流
- 4) 全体交流

<参加者の声>

- ・2つのブロックのフォローアップセミナーの報告は良かった。みなさんの日々の取り組みについて知ることができた。
- ・関係ができつながら協働するには時間がかかると思います。このような場が継続的に開催できるかどうかポイントだと思いました。
- ・他のブロックで対面での研修等が行われていることを知り、私のブロックでもこの繋がりを活かしていきたいなと感じました！
- ・日々、目の前の仕事に追われる日々です。本日参加させていただくことにより、初めて子どもの日本語教育に関わろうと考えた頃の気持ちを思い出しました。



■ 成果と課題

1. 受講者アンケートの実施と回答について

研修後、受講者に対して研修に関するアンケートを実施した。質問内容については、大きく分けて【研修全体について】【研修への取り組み・満足度について】【LMSについて】【目標の達成・今後の活動について】【修了後のネットワーキングについて】の5つの観点に分け、それぞれ複数の質問項目を設定した。

またそれらとは別途、自由記述にて回答を受け付けた。

<受講者アンケート概要>

実施期間：1月30日～2月5日

回答数：67件

回答方法：Googleフォーム

【子ども初任研修】受講者アンケート

【研修全体について】

1. 全体の単位数・時間数（60単位時間）は適切だと思いますか？ *

- ☐ そう思う
- ☐ おおむねそう思う
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ そう思わない
- ☐ 回答できない・しない（無回答）



■ 成果と課題

1. 受講者アンケートの実施と回答について

<質問項目①>

【研修全体について】

- ・全体の単位数・時間数（60単位時間）は適切だと思いますか？
- ・講義動画視聴＋課題＋スクーリング＋実習のバランスは適切だと思いますか？
- ・実習の内容や実施方法について適切だと思いますか？
- ・課題の量や内容は適切だったと思いますか？
- ・スクーリングの内容は適切だったと思いますか？

【研修への取り組みに・満足度について】

- ・研修はオンラインで実施しましたが、参加しやすかったですか？
- ・課題について十分に取り組んだと思いますか？
- ・スクーリングに積極的に参加しましたか？
- ・スクーリングの内容について十分に理解できたと思いますか？
- ・スクーリングの内容について十分に満足しましたか？
- ・研修を通して他の受講者と十分に交流できたと思いますか？

【LMSについて】

- ・動画の内容（項目）について十分に理解できたと思いますか？
- ・動画の内容（項目）について十分に満足しましたか？
- ・LMS（Himawari）の使い勝手は良かったですか？
- ・研修修了後もLMS（Himawari）を活用したいと思いますか？



■ 成果と課題

1. 受講者アンケートの実施と回答について

<質問項目②>

【目標の達成、今後の活動について】

- ・この研修を受けるにあたってのご自身の目標は達成できたと思いますか？
- ・この研修で学んだことは今後の児童生徒教育の活動に活かせると思いますか？

【修了後のネットワーキングについて】

- ・他の受講者と今後もつながりを持てそうだと感じましたか？
- ・修了者ネットワークに参加したいと思いますか？
- ・今後修了者向けセミナーや交流会に参加したいと思いますか？

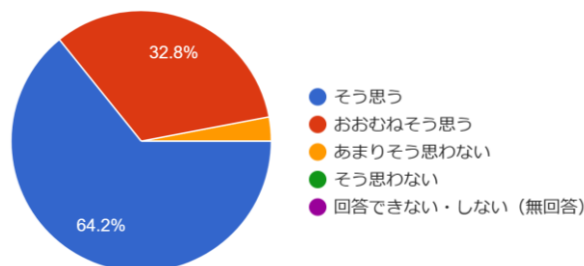
【自由記述】

- ・どうしてこの研修を受講しようと思いましたか？
- ・この研修に参加して何を得ることができましたか？それは今後どのように活かせると思いますか？
- ・今後、受講したい研修のテーマがございましたら教えてください。

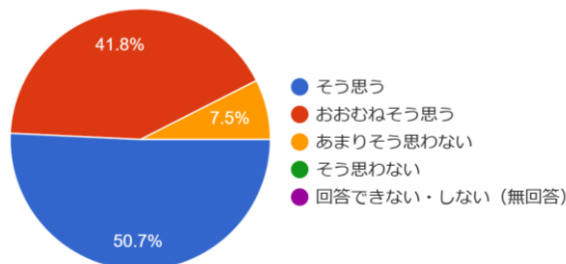


■ 成果と課題

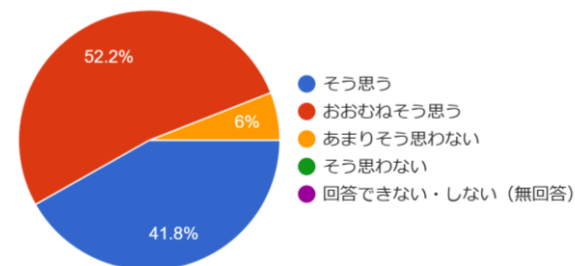
1. 受講者アンケートの実施と回答について ＜アンケート結果①（一部抜粋）＞



1. 全体の単位数・時間数は適切だと思いますか？



2. 講義動画視聴＋課題＋スクーリング＋実習のバランスは適切だと思いますか？



3. 実習の内容や実施方法について適切だと思いますか？

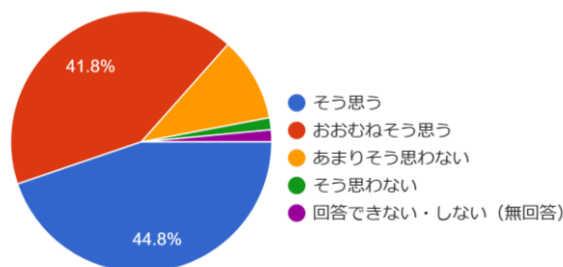
【コメント】

- ・単なる教授法ではなく、広い勉強をさせて頂いたので、半年という長い時間は必要なのかな、と思いました。
- ・詰まっている感じで大変ではありましたが、これ以上長くても辛く、短くても学び足りない気がします。
- ・「動画視聴」だけではまだ知識として定着しないので、「スクーリング」は絶対必要でした。この2つはお互い補完し合い、加えてそれらを支えるものとして「課題」と「実習」で構成されています。とてもバランスが良かったです。
- ・全てを当日にというのは無理だし、ポイントがわかるようになった状態で疑問点などを整理して(整理できていないならそれを自覚して)参加できるため。
- ・計画、実行、反省のバランスがよかったし、グループで率直な意見を出し合えるのがよかった
- ・準備→実践までで、それも十分勉強になりましたが、グループでのブラッシュアップや講師の方からのフィードバックの時間もあるとっと深められたかなと思います。

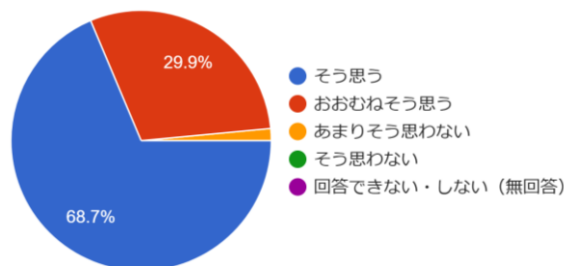


■ 成果と課題

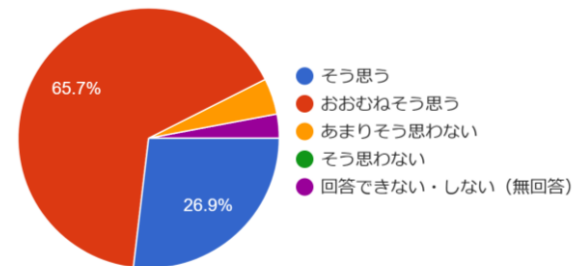
1. 受講者アンケートの実施と回答について ＜アンケート結果②（一部抜粋）＞



7. 課題について十分に取り組んだと思いますか？



8. スクリーニングに積極的に参加しましたか？



9. スクリーニングの内容について十分に理解できたと思いますか？

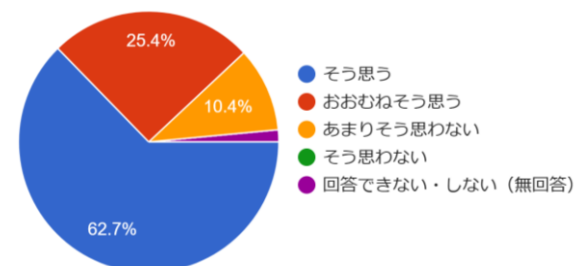
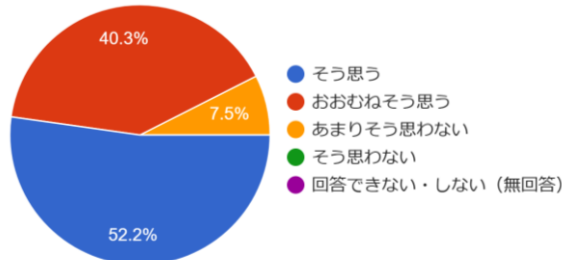
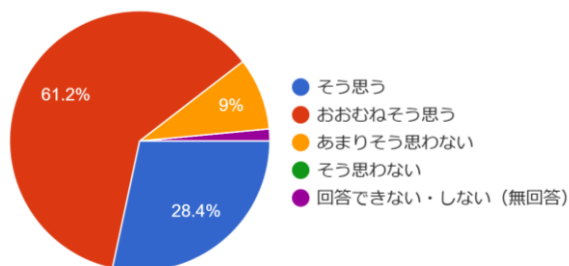
【コメント】

- ・仕事をしながらの研修だったため、すべてに全力に取り組めたのかは、反省すべき点もあるため。
- ・その時点でできる自分のベストは尽くしたが、他の方との共有を通じて、毎回より良い方法や不足していた情報に気づくことがあったから。
- ・刺激をたくさんいただき、このような機会はないかなかならないと思い、毎回必死についていこうと自分なりに積極的に参加できたと思います。
- ・クラス全体での議論は難しいところがありましたが、グループワークはみなさん積極的でよい意見交換ができ有意義な学びとなりました。
- ・動画で事前学習してからのスクリーニングなので、よく分かりました。定着に役立ちました。
- ・内容が盛りだくさんだったと思います。消化しきれていないことも多くあるように感じています。



■ 成果と課題

1. 受講者アンケートの実施と回答について ＜アンケート結果③（一部抜粋）＞



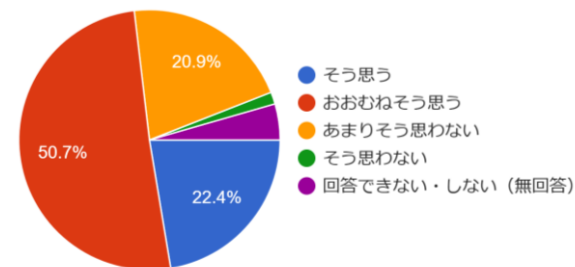
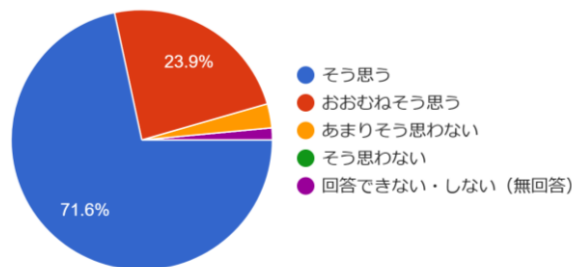
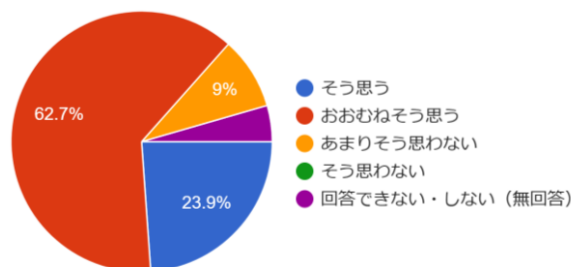
【コメント】

- ・研修の期間中、何度も繰り返し視聴できて良かったです。また、スクリプトがあったのは振り返りの理解に助かりました。
- ・勉強した直後は理解できていても、時間の経過とともに忘れてしまうことも多いので、定期的に振り返り、学び直す時間を取りたい。
- ・どの回も興味深く視聴できました。必要な回は繰り返し見られたのも良かったです。
- ・自分では探し当てることができない第一線の先生方の講義が提供されており、また系統建てられていたので効率的に学べたと思います。
- ・今後も繰り返し視聴し、理解を深めたいと思います。
- ・新しいコンテンツが増えたら利用したいと思う。全項目は難しいが、指導法に関する項目の動画は、実践例が見たいと思う。



■ 成果と課題

1. 受講者アンケートの実施と回答について ＜アンケート結果④（一部抜粋）＞



【コメント】

- ・すぐに技術が身について使えるようになるわけではないのですが、この研修で学んだことをベースに、どうやって技術を身につけていこうか道筋が見えてきたようです。
- ・わかっているつもりだったことがそうではなかった事がはっきりしたし、最終的に自分のやるべきことが見えてきたから。
- ・どのように考えるといいのかということが少しわかったので、ちょっと自信を持って児童生徒等や、一緒に支援に関わっている人との話し合いにも臨めそうです。
- ・特に教科との総合学習という日本語教育の視点が大きく加わりました。



■ 成果と課題

2. 成果と課題について

<成果>

- 受講者が多様な地域から参加していたため、初めは活発さに欠けていたが、回を重ねるごとに交流が活発になった。
- クラスの講師が大学研究者、学校教師、地域支援者など異なる立場で構成されており、幅広い視点からの議論ができた。
- 受講者の経験、問題認識、学習スタイルに個人差があったが、クラス内で共有し合うことで相互理解が深まった。
- タイトなスケジュールの中でも受講生は集中して取り組み、活発な議論が展開された。
- 昨年度と比較して、講師間の連携が深まったため、意見の共有が円滑になった。
- 1クール1主担当制ではなく、各クラスの主担当が集まって課題やスクーリング内容を検討する形になり、負担が分散された。
- スクーリングの内容や活動構成についての共通理解を形成することで、各担当講師が一定の裁量を持って進めることができた。



■ 成果と課題

2. 成果と課題について

<課題>

- 後半になると課題提出ができない受講者が増え、参加が途切れるケースが見られた。
- クラス全体で話す時間を設けることで一体感が生まれたが、個々の意見を十分に深掘りする時間が限られていた。
- ブレイクアウトルームでの話し合いでは、講師が複数のグループを移動して話を聞く形になり、個々のグループへのフォローが不十分だった。
- 出欠や課題の提出遅れが見られたが、受講者の個々の事情もあり、強制的に改善するのは難しかった。
- 実習が第5・6クールと並行して進んだため、スケジュール的に慌ただしい進行となった。
- JSLカリキュラムなどの動画は理解が難しい部分もあり、どの程度の理解が求められるのか明確にする必要がある。

■ 成果と課題

3. 事業評価委員会による評価①

1. 委員による評価

今年度事業評価委員会では「①児童生徒等への日本語教師研修」に関して「事業の目的が達成できるように適切に企画計画されていたか（クラスの適切さ・教材利用の適切さ・研修の進め方・人員の配置について）」、「事業の目的は達成されていたか」の2つの観点から、「②ネットワークの仕組み構築」に関しては「事業の目的が達成できるように適切に企画・計画されていたか」、「持続可能なネットワークの仕組みが構築されたか」の観点から5名の委員が評価を行った。評価項目、評点の平均（5が最高（非常によい等）、1が最低（非常に問題がある等））、委員からの評言は以下の通りである。

1-1. 児童生徒等への日本語教師研修

○事業の目的が達成できるように適切に企画・計画されていたか（5点）

委員全員が5点の評価を与えている。

「研修の時期によって「地域別」「ポジション別」「対象児童生徒の年齢層別」に分けることが計画され、「就学前から高校・就職までの連続性」「発達段階に応じた教育」「地域・学校・企業の連携」の検討に取り組みやすいものとしている

■ 成果と課題

3. 事業評価委員会による評価②

○事業の目的は達成されていたか（4.8点）

全体的で非常に良いという4.8点の評価となった。

受講生の振り返りを読むと、受動的な知識獲得から自地域・自分の現場で「私は何をするのか」といった主体的かつ具体的な問題意識へと移行していく変化が見られた。伝達される情報の量と求められる活動項目が多い、課題の共有に関して先生方からのフィードバックが足りない。

1-2. ネットワークの仕組み構築

○事業の目的が達成できるように適切に企画・計画されていたか持続可能なネットワークの仕組みが構築されたか（5点）

委員全員が5点の評価を与えている。

メーリングリスト、Slack、Google ドライブを活用し、スクーリングなど本研修に関する情報だけでなく、各地で開催される研修会やイベントの情報が参加者によって積極的に共有されており、ネットワーキング構築の可能性が見出された。

日本語教師間の連携・学び合い・ネットワークの重要性を実感して本研修を終えていることが分かり、持続可能なネットワークの仕組み構築の土台作りがなされていることが窺える。

■ 成果と課題

3. 事業評価委員会による評価③

○持続可能なネットワークの仕組みが構築されたか

この項目に関しては委員全員が4点の評価を与えている。

交流にはまだ「仕掛け人」が必要な段階であるように感じた。今後、誰がどのようにネットワークを維持していくのかを検討する必要がある。

事業実施期間を超えて継続的なネットワークのコーディネーションが求められ、今後の取組みに向けた検討が必要。

2. 評価のまとめ

「児童生徒等への日本語教師研修」事業に関しては、その運営、目的達成度は高く評価された。この結果から、今年度の事業運営方針、内容、方法を継続していくことで、さらなる人材の育成が行えると判断できる。ただし、本事業の運営方針、内容、方法をモデルとして、他の機関が事業の展開、普及を図ることは困難であるという意見が委員会でも示された。本事業は、継続的にそれを支えてきた人材によって運営されており、このような人材（群）を育成しなければ、事業の普及は難しい。また、ネットワークに関しては、持続可能性について課題が示された。ネットワークを維持・持続させるためには、核となる人材の育成と組織の整備が必要である。